

続けてきた。こうした努力が認められて、本年四月、地球惑星システム学科としての新しい息吹を始めることができた。今後大きく羽ばたくために全学の支援をお願いしてやまない。

新しい地球科学への脱皮

理学部地学科は、昭和一八年、文理科大学地学科地質学鉱物学専攻として開講され、以来、日本の地質学の進展にきわめて重要な多くの貢献をしてきた。その内容は、地史学、岩石学、鉱物学、鉱床学という教室を構成する講座の名称からも明らかのように、これまでは地質学・鉱物学の分野を中心にした教育・研究が行われてきた。一方、一九六〇年代後半に台頭してきたプレート理論を基礎にした地球化学や地球物理学を含めた地球科学の諸分野の総合化、人工衛星による地球の観測や惑星探査、惑星としての地球の進化などを研究する総合科学への脱皮は、地学科が進むべき新しい地球科学への世界的な流れの一環であったとも言えよう。

地球惑星システム学科では

旧学科では、たとえば、断層、堆積、岩石変形、鉱物結晶、鉱石の組成などが、それぞれ別々の立場で研究され、個々の特性や成因が論じられてきた。これに対し、新学科では、たとえば大気や海水の成因や生物の起源など、

惑星科学を抜きにしては考えられないような問題はもちろん、全ての地質学的諸現象あるいは地球惑星物質について、相互に有機的な関連をもった絡み合いとして、システムの解析して行こうとする大きな目的のもとに努力が続けられている。また、新講座ではそれぞれ以下に述べるような分野に重点をおいて研究・教育を行い、講座間の学際的分野の研究協力を努めている。

○地球環境進化化学：地球の誕生以来、地球表層における水圏、大気圏、生物圏などの相互作用を支配してきた地球環境の進化過程の基本原理について、堆積相、生物相を中心に研究する。

○地球造構学：地球史に表れた造構作用における岩石・鉱物の変形機構、造構運動像、およびそれらとグローバル・テクトニクスとの対応関係の解明を中心にすえて研究する。

○地球惑星物質学：原子レベルで地球や惑星を構成する物質の育成・成長機構と発達過程を明らかにするとともに、これらの物質を媒体として進行する環境汚染の実体と機構を解明することを目的とする。

○地球惑星物質循環学：トレーサーとしての希ガス同位元素・微量元素分布の実体の観測および循環機構を理論的・実験的に解明する。また、資源物質の起源にかかわるマグマの形成と金属・非金属元素の濃集過程およびその機構、地球表層部の流体相の挙動と地熱系ならびに環境保全を目的とした元素の分散過程の解明を目指す。

○地球惑星内部物理学：数値シミュレーションによるダイナミックな地学現象の再現、地球内部状態を示す物理量（速度構造・温度・密度等）の地震学的観測等を通じて、地球惑星内部の不均衡性やテクトニクスを解明する。

総合科学部人間文化コースとはどんなコースか？

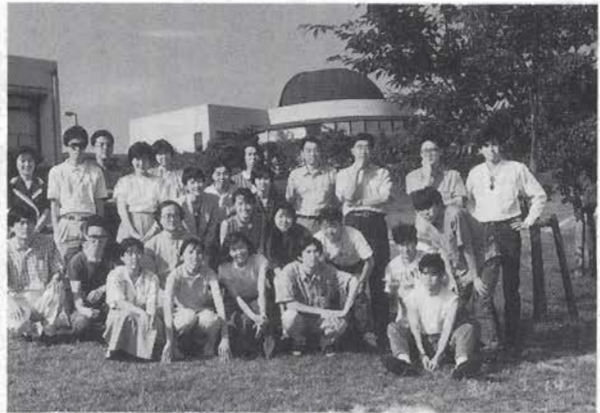
総合科学部 フランス語講座 村瀬 延 哉

新コースの設立

人間文化コースは、平成四年度から総合科学部に発足したコースである。総合科学部に

は、すでに文科系三コース、理科系四コースがあるが、新たに文科系に四番目のコースが誕生したことになる。

このコースは、ソ連邦の解体に象徴される新しい時代の到来に際し、既成概念に捕らわ



比較文化研究(人間文化コースの前身)の夏季合宿風景
〔広島県豊田郡安浦町にて〕

れることなく、現実には即した独自の視点から、日本および世界の諸々の文化現象を説明する目的で作られた。さらに、究極的には、変貌する国際社会の理解、新時代のモラルの確立、新しい知のパラダイムの探究といった、現代の要請にこたえることを目標としている。

二つの研究群

人間文化コースは、比較文化研究群と現代文化研究群の二群から構成されている。いずれの群に属するかは、三年次生になる段階で、学生諸君が選択する。

第一群の比較文化研究群は、比較研究という学問的手法を用いて学宗教、思想、美術等の領域の解明を目指す。比較文化論、比較哲学、比較宗教学、比較倫理学、比較芸術学、比較文学、比較科学思想史、美術史等の授業科目が設けられている。

第二群の現代文化研究群は、現代という時代に焦点をあてて研究する。国際間の異文化が混合し、また、たとえば芸術と科学といった異なった分野間の影響関係が顕著な現代文化・文明の特質を捉えるために、現代国際文化交流論、現代社会文化研究、近代文化批判論、神秘思想論、現代演劇・映画論、現代小説論、現代批評論、現代ロシア・東欧文学研究等の科目が用意されている。

新分野の研究

新コースは、二群制をとっているが、閉鎖的な二ブロックに別れているのではない。学生諸君が、自由に他群の授業を履修できることは言うまでもない。

実際、前記一、二群の授業科目以外に、両群の教官スタッフが、共同して研究・指導にあたる三番目の授業科目群が存在する。複合的授業科目群と呼ばれるこの科目群は、従来の大学のカリキュラムにおいて手薄であった新分野を研究対象としており、学生諸君の関心を大いに惹くものと予想される。文化記号論、女性学、都市文化論、風俗史、児童文学論等がこれにあたる。

新しい人材の養成

新時代への過渡期とも言える現代社会にあつて、発生する未知の事態に対し、国際的、学際的な知識を駆使して、的確な判断、対応を行なえる人材が、ますます必要となつていく。人間文化コースは、総合科学部の既設七コースと協力しつつ、真に人類の将来を担うにたる、国際感覚あふれた、独創的人材を育成することこそ、コースの使命であると考えらる。

語学教育の重視

新しい人材を養成するにあたって、本コースが重点の一つにしていることは、語学に強い学生を育てることである。人間文化コースの教授陣は、語学に深い経験と技量を持つスタッフによって構成されている。学生諸君は、各自の語学への興味、ニーズに応じて、自由にカリキュラムを組み、高度の外国語理解・運用能力の習得を目指すことができる。

卒業生の進路

卒業生は、広い視野と高度な外国語運用能力によって、各種官公庁を始め、種々の企業・事業の研究職を含む幅広い分野において、活躍を期待できる。特にマスコミ関係、商社、企業の国際調査部門や宣伝広報部門を希望する者には最適であろう。